

今週（10月11日から10月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は積み最終週となった。当座預金残高は週初305兆円程度であったが、14日の年金定時払いにより、315兆円程度まで増加した。先週と同様に地銀、証券業態を中心に調達需要が底堅かったものの、週後半にかけ、積みの進捗を終えたと見られる地銀、証券業態からのビッドが薄くなった。最終日となる14日は年金定時払いがあることに加え、次の積み期にかかる取引となることから、一部都銀、信託には取り控えの姿勢も見られた。一方で、▲0.02%で調達を継続した先も相応に見られたため、無担保コールO/N加重平均レートには然程変動がなかった。無担保コールO/N物は▲0.04~▲0.01%のレンジを中心に取引された。ターム物は新積み期スタートで地銀のオファーが散見され、1W~1M程度で▲0.03~▲0.02%程度の出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは13日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,861億円（期落ち分1,910億円）で札割れとなった。また、14日には3M物60億円、18日には3M物50億円の期日があったが、先週の5日にオファーされた3M物に集約化されたため、今週は3M物のオファーは無かった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.10~▲0.07%程度の水準で推移した。11日のS/N(10/13-10/14)は▲0.075~▲0.07%程度での出合い。12日のS/N(10/14-17)は投資家のオファーが薄く、▲0.10~▲0.08%程度での出合いとレートは低下。13日のS/N(10/17-18)は短国発行要因から▲0.075~▲0.07%程度までレートを切り上げた。金曜日のS/N(10/18-10/19)は、短国買入オペを受けて▲0.09~▲0.08%までレートを切り下げた。

SC個別銘柄では、5年127~129、10年340~344、20年155~158、30年48~52、40年9などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、7日に行われた短国買入オペへの応札額が大きく膨らんだことで在庫の積み上がり懸念され、適正水準を探る展開となった。

13日には3M物の入札が実施された。需給軟化傾向からレートの上昇が期待される中、WI取引では▲0.315~▲0.29%の出合いが見られ、平均落札利回りは▲0.2925%、按分落札利回りは▲0.2735%（按分比率42.1770%）と、WI取引に引っぱられたためか事前予想よりもやや強めの結果となった。その後のセカンダリーでは▲0.29%近辺での出合いが散見された。

14日の短国買入オペは1兆7,500億円で実施され、平均落札利回較差+0.020%、按分落札利回較差+0.016%（按分比率92.4%）と、需給の弱さを反映した小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額4,000億円強に対し、週間発行総額は3,500億円弱と若干下回った。ゴム・商社・不動産・小売業態において大型発行があったものの、依然として9月末の市場残高の落ち込みからの急回復は見られず、比較的閑散としたマーケットとなった。発行レートは、発行残高が伸び悩む中、引き続き投資家のニーズは強く、概ね0%近辺での取引が中心となった。また、5日に行われたCP等買入オペの結果が▲0.001%と9月以前の水準に戻ったため、マイナス金利での発行は殆ど見られなかった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/10 (月)						
10/11 (火)	17,024.76	△ 0.055	103.95	△ 0.028	△ 0.075	3,054,800
10/12 (水)	16,840.00	△ 0.065	103.63	△ 0.032	△ 0.075	3,089,700
10/13 (木)	16,774.24	△ 0.065	104.50	△ 0.032	△ 0.107	3,091,300
10/14 (金)	16,856.37	△ 0.060	103.82	△ 0.035	△ 0.078	3,153,500

来週（10月17日から10月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
10/17 (月)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 8月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50) 8月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)			9月の米鉱工業生産・設備稼働率 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値
10/18 (火)		TB1Y 25,000億円 10/20発行	流動性供給 4,000億円 10/20発行	9月の米消費者物価指数 9月の英消費者物価指数
10/19 (水)		交付税借入 10,500億円 10/28借入		米ページブック 9月の米住宅着工件数
10/20 (木)		TB3M 44,000億円 10/24発行	流動性供給 5,000億円 10/24発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 9月の米中古住宅販売
10/21 (金)	全国信用組合大会にて黒田総裁講演 The Economist主催ジャパン・サミット2016にて黒田総裁講演			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/17 (月)	900	▲ 15,400	▲ 14,500	国債買入 全店共通 CP買入	▲ 1,900 ▲ 900	7,400 1,900	6,500	▲ 8,000	TB3M発行▲44000償還40000 2Y発行▲23000償還11800 個人向け3Y・5Y・10Y▲3400償還4500
10/18 (火)	0	▲ 26,000	▲ 26,000	短国買入 全店共通	▲ 100	17,500	17,400	▲ 8,600	5Y発行▲24000
10/19 (水)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/20 (木)	▲ 2,000	▲ 21,000	▲ 23,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 22,000	TB1Y発行▲25000償還8900 流動性供給▲4000 エネルギー対策借入▲5500期日5000
10/21 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000	被災地支援	▲ 100		▲ 100	▲ 1,100	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,100	▲ 59,400	▲ 62,500	—	▲ 3,000	27,800	24,800	▲ 37,700	

10/17は日銀予想、10/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、国債の発行日が多く、各種の買入オペを加味しても週全体では資金不足になることが見込まれる。新しい積み期に入るため、無担保コールO/N加重平均レートは若干低下することが予想される。

短国市場は、18日に1Y物、20日に3M物の入札が実施される予定となっている。1Y物に関してはオペ見合いの買いが入ると考えられる。一方で3M物に関しては最近の需給軟化傾向もあり、改めて目線を構築することが予想される。

CP市場は19日にCP等買入オペが3,500億円で実施される予定となっている。発行案件があまり膨らまない中、売却ニーズは根強く、レート低下の余地は乏しいと予想される。

主要なイベントとしては19日のページブック、20日のECB定例理事会などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入